



62
まいん

ぶっこくざんずいおうじ 佛國山瑞應寺



寒行托鉢に出発する様子

ぶっこくざんずいおうじ 佛國山瑞應寺

しかによらいぞう ほんぞん
は、釈迦如来像を本尊とする
そうどうしゅうぜんしゅう
曹洞宗(禅宗)に属するお寺です。

文安5年(1448)生子山城主松木家11代武村が、鎌倉から月担和尚を招いて、父母の菩提を弔うために建立し、その戒名より、佛國山瑞應寺(以下、瑞應寺)と名付けました。

釈迦如来にあやかり
禅の心を知る

慶応3年(1867)、米価の値上がりにより別子銅山の稼人が暴動を起こした際、瑞應寺の住職が問題解決に協力したことが縁で、広瀬幸平と瑞應寺との関わりが生まれました。

これに感謝した広瀬幸平は、明治2年(1869)2月本堂横に長泉堂を建立し、併せて810坪の畑も寄贈しました。



別子銅山の銅で葺かれた本堂の大屋根(昭和11年)



長泉堂

後年、住友墓地が設けられて、大正5年(1916)には、別子銅山の操業が東平地区に移った際に、蘭塔場の墓碑も移されました。

さらに、大転輪蔵は、京都の北野天満宮に奉安されていたものが、明治の神仏分離令で安価で売り出された際、銅山での殉職者を鎮魂するため、住友によって買い求められました。



大転輪蔵

この転輪を回して礼拝すれば大きな功德が積もると言われています。また、県指定の有形文化財にも指定されています。さらに、境内には、別子大火災や別子大水害、太平洋戦争時の中国人捕虜の殉職者などの慰霊碑が建立され、現在も追悼法要が行われています。

ふれあいめぐりあい

ぜん
禅の心を
説き伝える人



ならさき つうげん
榎崎 通元さん

ならさき つうげん
榎崎 通元

さんは、佛國山瑞應寺の30代目のご住職さんです。

人の生きる道を優しく、分かりやすくお教えいただき、私たちに勇気と生きる力を与えてくださいます。

